



高見小学校 学校だより

平成30年10月26日

全国学力・学習状況調査特集号

発行：校長 久富繁雄

「た」・たくましく、「か」・かしこく、「み」・みんなやさしく

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数，理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

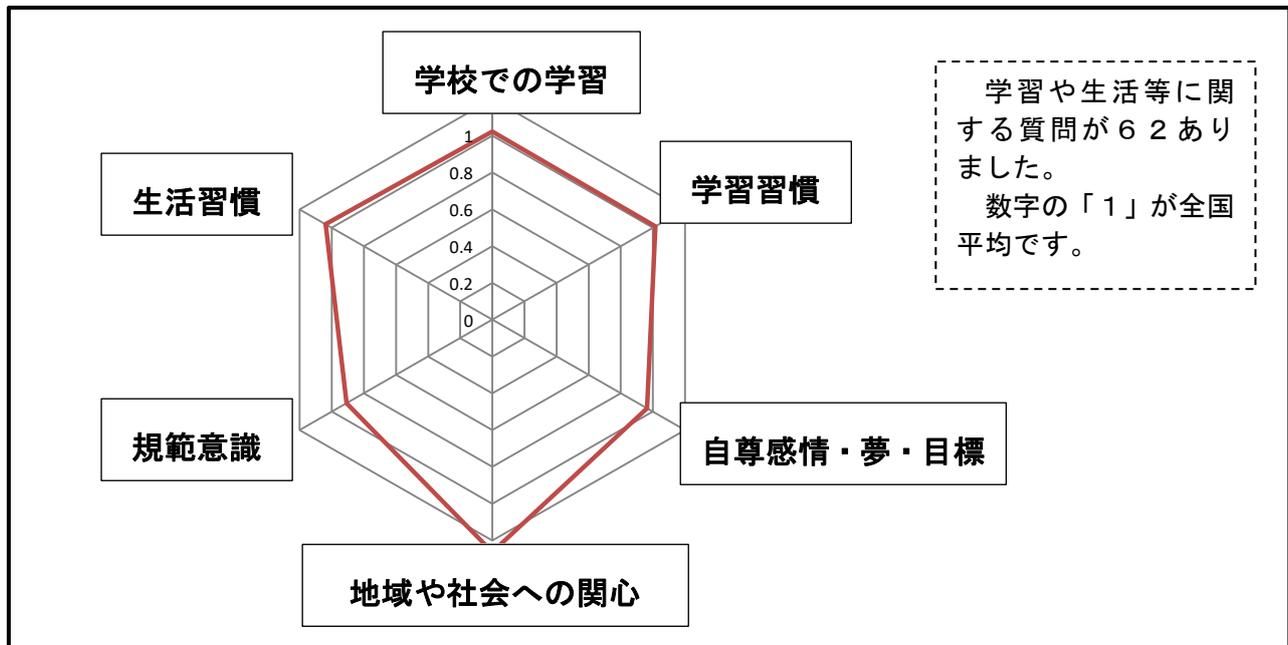
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1 本校の学力調査結果の分析

カテゴリー	全体的な傾向や特徴など ○…全国平均と比較してよくできた問題 △…全国平均と比較して努力が必要な問題	全国平均との比較
国語A (知識)	○ 自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の効果を考える問題の正答率が高かった。 △ 相手や場面に応じて適切に敬語を使う問題や漢字を文の中で正しく使う問題などの一部に、正答率の低いものがあった。	全国平均正答率を上回っている
国語B (活用)	○ 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題の正答率が高かった。 △ 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く問題の正答率が低かった。	全国平均正答率を上回っている
算数A (知識)	○ 除法で表すことができる二つの数量の関係を理解しているかを問う問題の正答率が高かった。 △ 直径の長さと同周の長さの関係について理解しているかを問う問題の正答率が低かった。	全国平均正答率と同程度
算数B (活用)	○ 示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述する問題の正答率が高かった。 △ 示された情報を解釈し、条件に合う時間を求める問題の正答率が低かった。	全国平均正答率を上回っている
理科 (知識・活用)	○ 物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用する問題の正答率が高かった。 △ 人の腕が曲がる仕組みを模型に適用する問題の正答率が低かった。	全国平均正答率を上回っている

2 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙の調査の項目としては、「学校での学習」「学習習慣」「自尊感情・夢・目標」「地域や社会への関心」「規範意識」「生活習慣」などについての項目がありました。上記のレーダーチャートがその結果です。「1」が全国平均です。

「学校での学習」に関する質問の「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」の質問については、全国平均を下回っている状況です。今後、さらにノート指導に力を入れていく必要があります。また、ノート指導に伴い、自分の考えを説明する力の育成にも努めていきます。

朝食・就寝時刻・起床時刻等の「生活習慣」に関する質問については、おおむね全国平均を上回っているものの、「学習習慣」に関する質問の「平日、一時間以上家庭学習をしている」という問いに対しては、昨年度と同様に全国平均を下回りました。学校では、宿題の内容や量を各学年の実態に応じて、出すようにしています。また、宿題以外でも、中・高学年では、自主学習（自学ノート）の充実を図っているところです。ご家庭でも、お子様の自主学習を見てあげて、どのような学習に興味をもち、あるいは課題を感じているのか、親子で共有していただきたいと思います。

「地域や社会への関心」に関する質問項目については、全国平均を大幅に上回る結果となりました。地域の祭りや催し物等に興味をもって参加している児童が多いことがうかがえます。児童のこのような「自分の住むまちが好き」という思いを大切に、学校でも自分の住むまちに愛着をもてる児童の育成に努めていきます。

3 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①教科に関する取組

- ・ 児童にとって「わかる授業」を意識した授業展開を推進していきます。
- ・ 学校で統一した「話型」や「ふりかえりカード」をもとに、「書く力」や「説明する力」の育成を図ります。
- ・ 算数科・理科において、児童がより理解を深めることができるように、TT指導や専科指導の充実を図ります。

②家庭生活習慣等に関する取組

(以下の2点についてご協力をお願いします。)

- ・ 家庭学習(学年×10分間←あくまで目安です)について、宿題以外の自主学習の定着を図るために、家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にしてお子様と一緒に取り組んでいきます。
- ・ 「高見中学校区で目指す児童・生徒の10のすがたと取組」に基づき、小中・家庭・地域で連携して、系統的な一貫した指導に当たることにより、学力向上を図ります。(本日、配布します)